

令和3年度「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」議事概要

開催日時： 令和3年12月21日（火） 13:00～14:30

開催場所： 札幌開発建設部 会議室

委員： 石井 吉春（北海道大学公共政策大学院客員教授）

◎ 泉 典洋（北海道大学大学院工学研究院副研究院長）

諏訪 義雄（国立研究開発法人土木研究所つくば中央研究所水工
研究グループ 研究グループ長）

向田 直範（北海学園大学名誉教授）

矢部 浩規（国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所寒地水
圏研究グループ 研究グループ長）

◎は委員長（50音順、敬称略）

オブザーバー： 北海道建設部河川砂防課、電源開発株式会社、北海道企業局工業用水道課、
桂沢水道企業団、三笠市、岩見沢市、美唄市

議事概要：

事業の進捗状況、今年度発生した付替道路工事箇所における斜面変状及び路面沈下の発生状況、積算基準の諸経費率の改定に伴う影響並びにコスト縮減策の取り組みについて説明を行い、委員より意見を頂いた。

頂いた意見を踏まえ、引き続き事業監理を進める旨の説明を行った。

○ 事業の進捗状況について

- ・事業工期の延伸はコスト増につながるため、事業工期が伸びないように工程管理の意識を持ち事業を進めてほしい。また各年度の予算制約はあると思うが、できるだけ早期に事業を進めてほしい。
- ・事業完了まで10年弱の期間があり、これからの物価上昇については予断を許さない側面がある。想定を超える物価上昇により事業費が増えることは、事業者の努力ではコントロールできないことなので、状況を見ながら議論をしていく必要がある。本委員会では事業費が増額になった理由を踏まえた審議をするべき。
- ・今回、斜面変状や路面沈下など予測できなかった事象が発生している。試験湛水に向けて予測できない部分はあると思うが、必要な調査・検討や対策はしっかり進めてほしい。

○ コスト縮減策について

- ・原石山の工事用道路を撤去しないことでダム建設費の縮減に繋がるが、一方で、今後の維持管理をしていく際のコストについても考慮して進めてほしい。
- ・三笠ぽんべつダムの管理棟の見直しによるコスト縮減などについては、管理にあたって必要な機能を確保して進めてほしい。
- ・観測調査の効率化や盛土材料の他事業による活用などによるコスト縮減は評価できる。さらに、最新の技術や土砂データベース等を活用して一層進めてほしい。

○ 全般について（委員会まとめ）

今回は基本計画を変更したばかりでコスト縮減策の件数が少ないので、引き続き検討が進み、成果が上がることを期待したい。また事業費とあわせ、事業工期についても継続して審議していくことを本委員会の意見とした。

（以上）